

こどもたちのトイレ教室

2013年7月アメニティ本社でトイレ教室が行われました。参加した横浜市立羽沢小学校3年生の皆さんからお礼のお手紙を頂いたのでご紹介させていただきます。



主婦ライター・水仙の水に流せない“廁”論

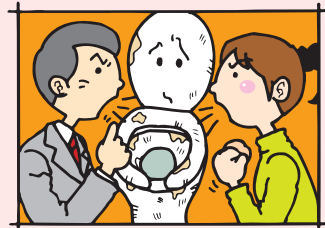
第7回

「キレイなトイレは心に効く!？」



水仙 美樹

アメニティに約10年間勤務したのち、第二子出産を機に退職。一念発起して、フリーライターの道へ。現在は主婦&ママの視点から地域やアートなどの情報を発信中。トイレウォッチも大好き!



先日、日本トイレ協会という団体に入会しました。この協会では、毎年11月10日の「トイレの日」に、「全国トイレシンポジウム」という研究発表会を開催しています。トイレやそれに

関わる専門家が集まってディスカッションするという、かなり“お堅い”シンポジウムなのですが、今年の研究発表の中で一般の人でも身近に感じられる興味深い話があったのでご紹介します。

それは「トイレの汚い家は夫婦げんかが絶えない」というもの。トイレ掃除を10年間していない家での清掃体験として語られたのですが、なんとその家ではトイレがあまりにも汚すぎて、住人は電気を消して用

を足していたそうです。夫も妻もお互いのせいに言い争うのが日常。公開された画像は、トイレじゃなくて墨とすずり?というくらい真っ黒でした。そのトイレを3時間かけて磨き上げたところ、その後夫婦げんかが劇的に少なくなり、とても感謝された、というお話でした。

お互いの排泄物で汚れたトイレをお互いのせいにし合う...というのは、どう考えても悪循環ですね。この報告をした

方は、汚れと夫婦仲の悪循環の両方を断ち切って、良い循環を生み出したわけです。

「心が洗われる」ことを表現するとき使う「カタルシス」という言葉には、もともと「排泄」や「浄化」という意味があります。人はインプットした情報を、消化してアウトプットします。自分がアウトプット（排泄）する場所をいつもキレイにしておくことでスムーズに浄化が行われ、初めて心も洗われるんだなあと感じた水仙でした。

編集後記

本年も宜しくお願ひ致します。今回特集をさせて頂いた三井記念病院・金子看護部長のお話は、第29回全国トイレシンポジウムで発表されたものです。金子部長の発表はとても情熱的で、病院のトイレの現状や、排泄に関する患者さんや看護師さんのご苦労、トイレに関する改善活動などを語られていました。そのお話から、病院現場で繰り広げられる温かな情景が目に見え、心に響きました。(雄撃弾治)

information!

「トイレ診断士達のブログ」と検索してください。
http://www.toireshindan.com/

「トイレ診断士」によるブログをご存知ですか。全国のトイレ診断士が、トイレを通して思うこと、感じること、診断の実情などを赤裸々に語っています。お気軽に覗いてみてください。



特集

現場から見る

看護師発信の病院のトイレ

患者さんの「より良く生きる力」を支える看護師さん。今回は病院のトイレを舞台に、三井記念病院・金子看護部長に現場の声を聞き致しました。

病院のトイレ事情 (改善までの道のり)

① 外科病棟での出来事：手術後1日目から早期離床の一環として、トイレまで歩行してもらうことが業務として行われていました。患者さんは数本の点滴瓶を下げて点滴棒を押しながら、身体にはドレーン挿入してドレーンバックを下げながら、身体を丸の字にして必死にトイレへと歩いていました。その後ろ姿に向かって「頑張ってください。ごめんなさいね、こんなに辛い思いをさせて」と心で詫言っていました。

② 採尿に苦労：和式トイレでの採尿は、採尿したカップを床に置き、身支度をしてからカップを持ち出します。点滴棒を押しながら片手にカップを持って行う採尿は、患者さんには大きな負担でした。そこで、採尿カップを置く棚をトイレ内に設けて、楽に持ち運びが出来るように工夫しました。こんな小さな出来事も喜んでいただきました。

③ 朝一番の看護業務は蓄尿袋の交換から：早朝5時、1日の尿量を計測する為、蓄尿袋を交換します。しかし、この作業は強烈な尿臭で頭がクラクラする作業です。「さあ今日も一日が始まるよ」という時間に行う、とても大変な業務です。

④ 救急外来は泥酔で汚れた方や路上生活者など、まずは体を清潔にしてから診察を受けさせたいと思う患者さんが度々受診されました。救急室のトイレにシャワーがあったらどんなに良いかと思っていました。

一般病棟の看護師からは、適切なトイレの数や便座の高さ、温水洗浄便座の設置、床のガタつきをなくす（輸液ポンプのアラームが鳴ってしまうため）など、現場で働く看護師ならではの活発な意見が次々と出されました。これらの意見は、自分たちの業務中心ではなく、患者さんの利便性を図ったものばかりでした。

そして2011年9月に建て替えられた新病院では、トイレ改善一例(※1)を含む多くの改善案が実りました。

水周りの検討会議

2006年10月、建て替えを検討していた三井記念病院では、看護師・検査技師・建設部担当者・水周り設備メーカーであるTOTOの社員、総勢50名の意見交換会が行われました。

整形外科病棟の看護師からは、脚を伸ばした状態で180度回転できるスペースの確保、点滴棒と介助者2名が入れるスペースの確保など、広いトイレが求められました。



▲水周り検討会議の様子



▲新病院のトイレ入口

《(※1)トイレ改善一例》

- ① 病室から近い場所にトイレを設置
- ② 段差の無いバリアフリートイレ
- ③ 十分な便器数
- ④ 救急室のトイレにシャワー設備
- ⑤ 車椅子トイレは2人介助ができる広さ
- ⑥ 尿器の洗浄を各トイレで行える
- ⑦ 自動で尿流量測定を行える便器を導入(右写真)



▲自動尿流量測定装置(TOTO株式会社)が看護師の負担を減らし、患者のプライバシーを守るなど、とても重宝しているそうです。

社会福祉法人 三井記念病院
東京都千代田区：482床



看護部長
金子 八重子氏

看護部のビジョン
●患者に選ばれる病院になる＝「ここにきて良かった」と思ってもらえる看護をする。
●看護師に選ばれる病院になる＝楽しんで働いて自分たちの誇れる病院を作ること。

ある日の病室の出来事

寡黙で忍耐強い89歳の患者さんから「トイレまで歩きたい」との願いが出されました。患者さんから出された願いはできるだけ叶えたいと思っているのですが、リスクが高いと判断し、ポータブルトイレを勧めました。それでも「自分で歩いてトイレに行きたい!」と意思の強さを感じました。そこで看護師3人で準備を整え、心臓の波形を監視し、血液中の酸素量を測定し、患者さんを抱えるようにトイレへと歩きました。患者さんは便器から立ち上がった時、膝が抜けてしまいました。それでも最後まで歩くことを優先して、抱えるようにベッドへ戻りました。ご本人から「ありがとう。行けたね」と笑顔が見られました。ご家族は側で涙していました。

まとめ

金子看護部長は、建て替え工事の際に「トイレは絶対に譲れない」と訴えたとおっしゃっていました。人間の尊厳とも言われる排泄を通して「患者さんの生きる力を支えたい」という想いを強く感じました(雄撃弾治)。

出典：三井記念病院・TOTO株式会社/都市とトイレ/第29回全国トイレシンポジウム(共催：日本トイレ協会他)の金子八重子氏発表資料より引用

文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介します。

第7回

古今東西トイレよもやま話

トイレを表す言葉

古今東西、トイレを表す言葉はたくさんありますが、その中からいくつかを紹介してみましょう。

1 かわや (川屋、廁)
「川のほとりの、あるいは川の上の小屋」という意味があります。川の上にトイレを造り、水の流れて排泄物を流してしまおうとする、天然の水洗トイレといえるでしょう。

「かわや」が最初に文献に現れるのは「古事記」(712年)ですが、ここでは「廁」が使われています。中国で「廁」の字はトイレのことですが、「厠」は屋根を、それが被せられている「則」は側とか傍を表すことから、離れ屋とも解釈されます。これと同様にトイレは母屋の側に造ったので、側屋といったのではないかという説もあります。しかし、川屋という言葉がもつトイレ本来の構造上の意味を振り返ると、これらは、後世の家屋配置から想像された説ではないかと考えられます。

2 ちょうずば (手水場)
本来は、神社などで手を清める場所のことでしたが、終わってから手を洗う場所の意味になり、トイレを表すようになったといわれます。「手水」と略されることもあります。

3 せっちん (雪隠)
中国から伝わったトイレの呼び名といわれます。そのいわれには次のような説があります。
(1) 禅寺に「西浄(せいじん・せいじょう・せいちん)」というトイレがあります。この読みの一つ「せいちん」が縮まって発音され、雪隠と宛字

されたという説。
(2) 中国・宋代に雪竇明覚禅師という名僧がおりました。若い頃、靈隠寺で修業した際に、トイレを掃除する役目を務め、その最中に悟りを開いたそうです。そのことから、廁の和尚さんという親しみを込めて、和尚さんの名前から「雪」、寺の名前から「隠」をとって、雪隠の呼び名が生まれたという説。

4 とうす (東司)、せいじん・せいじょう (西浄)
禅宗では、役僧をその職によって両班に分けますが、それぞれ、仏殿等で座る位置によって、東序・西序と呼ばれます。東司は東序の人が、西浄は西序の人が用いるトイレのことです。

このことばが武家社会に入り、トイレを東司あるいは西浄と呼ぶようになったといわれます。

5 こうか (後架)
禅寺で、僧堂の後ろに掛け渡して設けられた洗面所のことです。しかし、この側にトイレがあるところから、転じてトイレの意味を持つようになりました。

6 こうやさん (高野山)
高野山・金剛峯寺は、816年、空海が真言宗の総本山として創建しました。ここでは、高野山の谷より流れ出た清水を井戸に貯えた後、これを竹筒で僧坊の台所、洗い場、風呂、そしてトイレに流し利用しました。このトイレは、巧みな構造とともに、川屋式トイレ(水洗式トイレ)として有名になり、いつしかトイレのことを「こうやさん」と呼ぶようになった。江戸時代の上(京阪

神地方)で「コーヤ」と言えばトイレのことでした。

また、この呼び名は、お坊さんになるには「髪を剃る」、つまり「紙を落とす」に掛けているといわれる他、「カワヤ」の発音が、「カーヤ」→「コーヤ」と変化したともいわれます。

7 はばかり (憚)
「人目を憚る」つまり「人の目を避けて遠慮して用を足す場所」の意味から、こう呼ばれるようになりました。婦人や上品な家庭でよく使われたようです。

8 かんじょ (閑所)
本来は、「人気のない静かな場所」という意味ですが、一人で閑をかけて入る場所といったところでしょうか。語源は、鎌倉時代の武士や官僚の用語であったといわれますが、会議で都合の悪い時や暇潰しをする時、トイレに逃げ込むことをいうのだそうです。

9 ごふじょう (御不浄)
不浄とは不潔ということ。しかし、日本人はトイレを頭から汚い場所と極め付けてしまったものの、なくては困るところから、敬称を付けてみたり、神仏を祀る習慣も生まれました。

10 べんじょ (便所)
便所の「便」は「便利」が語源とされています。便利とは「うまく役立つこと」ですが、転じて「たよになる」という意味になります。つまり、便所とは、用を足すのにたよになる場所ということでしょうか。15世紀後半にはすでに使われている古い言葉のようです。

11 トイレ・おトイレ
英語のToiletの略で、外国では一般に通用しない和製英語です。ちなみに、おトイレを「音入れ」と読んで「録音室」とシャレることもあります。

12 Toilet (トイレット)
本来は「身だしなみ」という意味があ

ったといわれます。そこから、化粧室、更衣室、手洗場、洗面所などの言葉が生まれたようです。

フランス語の「Toilette」が英語化した言葉で、トワレは「布」を意味する「トワレ (Toile)」から生まれました。手を洗ってタオルで拭くことが、トイレの意に転用されたのです。従って、タオルが一般化する18世紀頃からの言葉と考えられます。

13 W.C. (ダブリュー・シー)
Water Closetの略語です。「水」「水に流す」という意味の言葉と、「小部屋」「密室」「押入」という意味の言葉の合成語で、水洗式トイレ、あるいは日本の川屋に相当します。最も広く世界に通用する言葉ともいわれます。

14 Rest Room (レスト・ルーム)
「休憩室」を意味します。ただし、会社、劇場などで、従業員や客のために、便所、洗面所などが備えられた休憩室のことです。

15 Lavatory (ラバトリー)
「洗い流す」という意味から、「洗面所」「化粧室」として、また、ホテルなどの「共同洗面所」のことを示すことも多い、イギリスでよく使われる言葉です。遠回しに便所のことを言いたい時に使われるようです。同様な言葉に「ラトリン」があります。

16 Loo (ルー)
イギリスの俗語でトイレを意味します。公衆トイレをa public looなどといっています。

17 Convenience (コンビニエンス)
「便利なもの」という意味から、イギリスでの公衆トイレの俗語となりました。日本で言う「便所」に通じるところがあるでしょう。

18 Privy (プリビイ)
privacyと同義語で内密の、個人的

な秘め事といった意味から、個室であるトイレも示すようになりました。日本でいえば「憚り」に等しいイギリスの古語です。

19 Back-House (バックハウス)
外便所の意味があります。日本の「後架」に相当する言葉で、家の奥や後ろに造られた、離れのトイレをいいます。

20 Comfort Station, Comfort Room (カンフォート・ステーション、カンフォート・ルーム)
体を楽にする場所、気持ちの良い場所といった意味で、アメリカで公衆トイレを示します。

21 Necessary Room (ネセサリー・ルーム)
なくてはならない必要な部屋という実感のこもった言葉です。イギリスの方言ともいわれます。

22 0 (ヌール)
ドイツのホテルでは、トイレに0 (0号室)と表示していることがあるそうです。

23 Escargot (エスカルゴ)
フランスの公衆トイレの愛称です。ぐるぐる回って入っていく構造がカタツムリの殻に似ているところからこう呼ばれます。

24 Servizio (セルベッチオ)
本来はサービスの意味がありますが、イタリアでは公衆トイレの意味にも使われています。

イタリアのビール工場を見学し、ビールをたくさん御馳走になったので尿意をもよおし「トイレはどこですか? (ドンデ・エステ・セルベッチオ?)」とたずねたところ、イタリア語のビール=セルベッサがセルベッチオに似ていたため、再びビール試飲場に案内されて閉口したというのは、故・西岡秀雄当館館長のうそのような本当の体験談です。

25 Shangri-La (シャングリラ)
イギリスの作家ジェームス・ヒルトンの小説『失われた地平線』に出てくる地上の楽園、つまり無憂郷のことです。後に、空軍の秘密基地の隠語にもなりましたが、米軍将兵の間では俗語としてトイレの意味にも使われていました。

第二次世界大戦も終わりに近づいた頃、イギリスの国会で「日本を爆撃する連合軍機が、どこから発進しているのか」という不見識な質問をした議員に対して、チャーチル首相は国防上の機密を配慮して、即座に「シャングリラ」と答え、会場は大爆笑したという話があります。なお、研究社『新英語辞典』には、「シャングリラ」を日本爆撃の米軍航空隊秘密発信基地の隠語として初めて用いたのは、アメリカのルーズベルト大統領だと記されています。

26 解憂所 (ヘウソ)
韓国、済州島木石苑のトイレ標示に書かれていました。憂い(心配事)を解く所といった意味でしょうか。

27 洗手間 (サイサウカン)
台湾、高雄市澄清湖畔にあった標示です。



【出典】トイレの考古学・講演編(116-118頁)より転載
編 集：大田区立郷土博物館
発行者：村山弘二
発行所：東京美術
発 行：1997年5月30日